

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【第110号】2021年4月
東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL：03-3383-7800

第4講はスキルアップ講座を兼ね、中野区社会福祉協議会とも共催し、リモートで開催。162人の参加がありました。講師の市古教授から充実した資料と情報が提供され、学術的なデータに基づいた講義と、福田信章さんの豊富な経験に基づく解説により、充実した学習でした。

また、第3講「普通救命講習」は、新型コロナ対応のため6月に延期して実施となりました。

報告

2月20日(土) コープ災害ボランティア基礎講座第4講

なぜ人は逃げ遅れるのか？

～自然災害から命を守るために、知っておきたいこと～

市古教授は都市防災と災害復興まちづくりの専門家です。今回の講座では、自然災害時の人間避難行動の理論、東日本大震災での津波避難行動実態調査、そして避難行動力を高めるための平時からの取り組みについて、お話しいただきました。

はじめに

阪神・淡路大震災時、僕は都市デザインを専攻していました。震災による甚大な被害と機能麻痺、当時学生ボランティアとして関わる中で、災害からしなやかに、すみやかに回復する市民の姿に出会い、そこから、自然災害からの暮らし・すまい・まちの回復プロセスを研究するに至っています。同時に、災害復興研究で得られた知見を、東京を中心とした未災地の防災に生かす研究を行っています。

1 自然災害からの避難における人間行動の2つの視点

災害は、ハザードとバルネラビリティの組み合わせによって測ることができます。つまり自然現象としてのハザードだけでなく、自然災害を発生前からイメージし、災害に立ち向かい被害回復に影響を与える、個人及び集団の特性と定義されるバルネラビリティに大きく影響されます。

災害避難対処行動の基本的な考え方として、迅速かつ主体的な避難があります。主体的とは、発災前からのハザードに対する知識と発災後の情報を元に、避難対処行動を自己決定できることを指します。注意したいのは、主体的が指しているのは、自分と自分の家族の命を守るという利己的行動に加えて、他者の命も含めた利他的行動も含むという点です。」

2 東日本大震災津波避難行動の相違

石巻中心部と岩手県山田町で実施した津波避難行動インタビュー調査(N=564人)を紹介します。当初は想定していなかった大きな差異が2地域で生じていました。発災からの津波避難判断を、①早期自己判断 ②情報に基づく判断 ③追従避難 ④来襲目撃避難に区分した場合、山田町では53.4%が早

講師の市古太郎さん



東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学教授。

名古屋大学工学部を卒業、東京都立大学にて博士号取得、横浜市役所でまちづくりの仕事に関わり、その後東京都立大学助手を経て現職。

専門は都市計画・まちづくり。特に復興都市計画と都市防災計画に詳しい。阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災、熊本地震などの国内震災、1999年の台湾921地震、2004年のインド洋大津波、2015年ネパールゴルカ地震などの海外の災害復興研究に従事。

これら災害復興研究の知見を基に、練馬区、葛飾区、豊島区、八王子市、町田市などで「事前復興まちづくり」手法の開発に取り組む。社会貢献として東京都地域危険度調査委員会、東京都広域避難場所調査委員会、東京消防庁火災予防審議会などの委員会専門委員を勤める。

2016年以降、東日本大震災での調査従事とこれまでの「生活再建研究」をもとに、保育所・幼稚園の災害マネジメント研究に着手。2017年から町田市災害ガイドライン検討会アドバイザー。2019年度厚生労働省保育所等における災害発生時又は感染症流行時の対応等に関する調査研究会委員、東京都災害ボランティアセンターアドバイザー。

質疑応答《抜粋》

期自己判断であるのに対し、石巻では26.3%に留まっています。つまり山田町の町民の半数以上が大きな揺れと同時に津波を覚悟し、行動を開始していたのです。

早期自己判断とは、主体的な避難を意味しています。なぜこのような判断差が生じていたのか、インタビュー調査結果からは、ハザードマップ認知、避難行動に関する家族会議状況、地域防災訓練の参加状況や有用度評価といった、避難判断の要因にもつながる項目で有意な差異となっていました。つまり、山田町では事前に、家族・地域・学校で津波現象の学習と津波避難の取り組み、行政もその支援を行っていたことがうかがえます。加えて、漁業従事者割合が山田町で大きいことから、山田町の町民の方は、山田町で生きていくということは、平常時の海の恵みと低頻度でも甚大な地震津波という、海がもつ恵みと脅威の両面に向き合っていくことだという覚悟を有していたように感じます。

もう一点、津波避難行動調査から指摘しておきたい点は、これは石巻にも共通し、自分の家族以外の「他者」への気遣いと声かけ、避難介助といった「共助型避難」が作動していた点です。ギリギリの不安状況において他者を気遣う行為が、こんなにもなされるものなのかと気づかされました。

3 避難行動力をたかめるために～東京マイタイムライン～

それでは、避難行動力を高めるために、どんな取り組みをしたらよいのでしょうか。

都内小中学校でも活用が始まっている「東京マイ・タイムライン」をおすすめしたいと思います。これは、平時の取り組みとして、避難先・気象情報と避難準備行動に入るタイミング・避難開始までの行動・地域に対しての行動といった「避難行動フロー」を作成しておくこと。そして、実際に台風が発生し接近してくる際に、その情報を正確に受け止め、適切な対処行動に入ることをめざすものです。

マイ・タイムラインを作成し、いざという際に活用していくことは、災害からの避難行動で大事な「主体的」な対処行動を取ることに繋がっていきます。

Q: 山田町と石巻市の人口構成差は？

A: 山田町は1980年、石巻市は2000年頃が人口のピーク。高齢化と少子過疎化は山田町の方が進んでいましたが、おじいちゃんやおばあちゃんから話を聞く機会が多く、また町会の防災訓練を小学校や町内の子ども会と一体となって行われており、伝承が生きていたと言えます。

Q: 東北三県で亡くなった方は、女性が1,000人多いと聞きました。アンケートで性別の比較はありますか。

A: 今回のアンケートでは、犠牲になった家族のことは聞くことができませんでしたが、性別・年齢・身体能力の違いによる亡くなられた方の差は、残念ですが明確に出ています。

Q: 避難所の環境改善はできますか？

A: 1つの例として、海外の避難所では、自宅からベンチや椅子を持参します。足腰への負担が大きい床座を避けることができます。合わせて、ペット問題なども地域の中で改善できます。(事例として、八王子市の上柚木の訓練を紹介)

福田信章さんより、早めの避難の3つのポイント

自分で・家族で・地域でかんがえてみるのが大事

①どのタイミングで避難するか

テレビ、防災無線、近所の人声かけ、親類からの声かけなど、どのようなきっかけでも早めに、雨が降る前に、台風が来る前に、避難しましょう。

②どこに避難するか

安全な場所に避難することが大事です。豪雨の場合は、危険な地域では在宅避難や車中泊は避ける方がよいと思います。移動が難しい高齢者などと避難する場合は、事前に親類や近所の人に伝えておき、

車に乗せてもらうなど相談しておきましょう。

早めに避難することや事前に相談しておくことが、避難に関するソフト面での取り組みのはじまりになります。

③何を持っていくか

持って行った方がよいものは、全て持って行きます。家族で区市町村のパンフレットを見るところから始めて、話し合しましょう。



事前質問と福田信章さんの解説（抜粋）

Q:小学生の子どもと、特に話し合っておくべきことは何でしょうか？

A:災害そのものを知ってもらうことから始めてみてはどうでしょうか？地震や水害などご自宅で想定される災害がどんな被害を出してしまい、生活にどんな影響が出るのかを、まずは簡単で構わないのでイラスト等を使って知ってもらい、「災害は怖い。でも準備をしておけば大丈夫！」ということ伝えていくことが大事だと思います。「怖い」で終わらせず「どうすればいいのか」、簡単なこと（地震の時に机の下にもぐる等）でもいいので、きちんと伝えることが大事です。また、助かった際には「子どもにも家族や地域のためにできることがある」ということまでお伝えできれば、さらに良いのではないのでしょうか。

Q:他の人の行動に影響される同調圧を回避する方法がありましたら教えてください。

A:「正しい情報を手に入れて冷静に判断する」ことだと言われますが、どの情報が正しく、どうなれば冷静にいられるかは、素人の私たちにはわからないことの方が多いのが現状ではないのでしょうか？少なくとも、ご自宅近辺の地域のハザードマップで被害想定等を知っておき、少し面倒でも区市町村の防災パンフレットを眺めておくだけでも、被災時の地域の情報を正しく把握できる可能性があります。余力があれば避難が想定される避難所の「避難所運営委員会（避難所運営本部/避難所運営部…等）」の集まりに顔を出して見て、避難所がどういう運営をされていくのかを知っておくことも重要かと思います。さらに余裕があるならば、災害関連の各種勉強会等に参加され、災害における被害やその対応策をよりイメージしやすくしておけば、他の人の行動に影響されにくくなるかもしれません。

Q:広域避難所と自宅避難では、物資供給など自治体のサポートを受ける条件が異なるのでしょうか。

A:残念ながら違います。ただし現在は避難所が「住宅に住めない被災者の避難場所」という機能のほかに、「地域の支援拠点」という機能を持たせる動きが各自治体に出てきています。本来避難所となる地域の小中学校はその地域の支援拠点になり、物資供給の拠点ともなるはずなのです。ただそのことを意識しているかどうかは地域によって違います。災害が起こってからではなく、起こる前にそのような意識を地域で共有しておくことがとても大事かと思います。



コラム by 宮本陽子幹事 その1

私の災害の最も古い記憶は、愛知県に住んでいた3歳頃のもので、リュックにカップや着替え、水筒、寝る時に抱いていた犬のぬいぐるみを入れ、家の近くの紡績工場の体育館に家族で行ったことを覚えています。室戸台風や伊勢湾台風で大きな被害のあった地域に近かったこともあったのか、大きな工場を何かの時の避難場所に解放していたようです。「寒い」「怖い」記憶もあるのですが、その時にもらって食べたおにぎりとお餅がすごく美味しかったという記憶の方が強く残っています。翌朝家に戻ると、屋根の瓦が落ちて割れ、鳥小屋が飛ばされていましたが、鶏は床下などに隠れ無事だったようです。

その後の災害の記憶は、2014年6月24日の雹の被害です。急に「ガゴボコ」という聞いたことのないようなすごい音がして外を見ると、何かが勢いよく南側のベランダやガラス戸に当たっていました。「雹？」とすぐに思いました。あまりに突然で、「もし硝子戸が割れたら・・・」と、カーテンをするくらいしかできることはありませんでした。握りこぶしくらいの大きさの雹がみるみるうちにたまっていきました。数分前まで明るかったのにあっという間の出来事です。その後、数分間大雨が続き、ピタリと止まりました。そこで、ベランダの手すりや硝子戸などの簡単な点検をし、北側の道路をみると、道に水が溢れ、車が立ち往生していました。雹で排水口が詰まって道路に雨水があふれ、車が通れなかったのです。急ぎ、数人で道路の排水口のゴミや雹を除き、道路にたまった水を流したのですが、最初、足元がわからない水の溜まった道路が怖く、また排水口がどんな状態でどこにあるかなどわからず少し手間取ったのを覚えています。そして、その時に、「コープ災害ボランティアの講座」で学んだ、普段何気なく通っているところの電柱や標識、通り道の家の塀、土地の低いところや高いところ、道路の様子など、安全なところや危ないところなどを普段から意識して生活することの大切さを痛感しました。「防災は普段の生活にあり」を体感した経験でした。この雹の被害は、我が家は、購入して2ヶ月ほどの新車がゴコゴコにへこみ、ベランダの植木が折れ、ベランダに面したガラス戸に傷がついたくらいでしたが、坂下にあった知人の家は、床上浸水の被害がありました。「想定外のことが起きる」との普段からの意識が大切とあらためて感じました。

■市古教授から提言「マイ・タイムラインを作ってみましょう」

東京マイ・タイムラインは、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における避難の遅れや避難者の孤立の発生を受けて、「鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」が検討し作成した防災教材です。住民一人ひとりのタイムラインであり、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理しまとめます。発災時の行動のチェックリストとして、「逃げ遅れゼロ」を目標にしています。

東京マイ・タイムラインのセットは公共施設でも、デジタル版の配信でも受け取ることができます。「一般用」「高等学校用」「中学校用」「小学校 4～6 年生用」「小学校 1～3 年生用」の 5 種類あり、作成例も資料と動画で見ることができます。

【東京マイ・タイムライン】<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/mytimeline/index.html>
<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/mytimeline/try/index.html>

■家族で話し合っわが家タイムラインを作成《見本》

とうきょう おおきな かわ
東京の大きな川のおそばに
お住まいの東さん一家の
マイ・タイムライン

ちち 父 とうきょうたろう 東京太郎：町内会で活動
はは 母 とうきょうか 東京香
わたし(こ) 私(子ども) とうきょうすけ 東京之助
おば 祖母 とうきょうこ 東京子：持病がある。

※ 叔母一家が数駅先の高台に住んでいる。

台風が近づいているとき!

3～5日前

名前 **東京太郎**
家族構成 **私、父、母、祖母**

警戒レベル	1	2	3	4	5
避難情報	避難に関する情報	自主避難など 注意の呼びかけ	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示 (緊急)
必要な 情報	大雨に関する気象情報 風に関する気象情報	大雨・洪水注意報 強風注意報	大雨・洪水警報 暴風警報	高潮警報 暴風警報	土砂災害警戒情報
ハザードマップを確認したら、家が浸水 することがわかった	高潮に関する情報 河川の氾濫に関する情報 土砂災害に関する情報	高潮注意報 氾濫注意報	高潮警報 氾濫警戒情報	土砂災害警戒情報	土砂災害警戒情報

避難準備の開始 (準備にかかる時間: 20分)

避難開始 (避難にかかる時間: 20分)

避難完了 (避難に要する時間: 80分)

父が避難開始 (作業にかかる時間: 40分) → 避難に要する時間: 40分

父は町内に避難の呼びかけを行ってから避難開始

父は避難に影響が出ない範囲で町内に避難の声がけ

町内会ですぐ再確認 (作業にかかる時間: 15分)

町内に声かけ (作業にかかる時間: 30分)

避難する場所 叔母の家

ハザードマップで叔母の家は浸水しないことを確認

受講者アンケートより ※97人提出

【評価】よかった5～1よくなかった

- 5:32人 4:51人 3:8人 2:5人 1:1人
- ・専門家であらざる市古教授と、現地での生の声を伝えて下さる福田さんの貴重なお話を伺えて、充実した時間となった。
 - ・できれば参加者同士の交流の時間がほしい。WEBなので繋がりを感じる時間があるとよかった。
 - ・理解するのが難しいところもあった。
 - ・避難行動のもっと具体例と詳しい話を聴きたかった。

- ・自分でまず何から取りかかれば良いのか分かった。また、時間もちょうど良く、集中してお話を聞いた。
- ・同じ自然災害でも、置かれた環境によって行動が変わり、災害の度合いが変わるということを知ることができた。「その時」自分や自分の家族、近所の人たちがどう動くべきか、あらためて考えなければならぬ。誰かを助けたがために命を落とすことは、助けられた人にとって大きな負担になるということも、忘れてはいけないと思った。自分の命は自分が守る。そうできるように周りの人たちとの話し合いをしたいです。